

平成 25 年 7 月 31 日

京都府知事 山田 啓二 殿
京都府教育委員会委員長 畑 正高 殿

京都府立鴨沂高等学校同窓会
会 長 上野民夫



京都府立鴨沂高等学校校舎改築に向けた要望書

京都府におかれましては、日頃から府教育行政の推進と学校教育環境の整備推進にご尽力を頂き誠に有り難うございます。

また、この度、私共がかねてから要望しておりました府立鴨沂高等学校の校舎改築に関して、今年度予算化され改築事業に着手されていることは、同窓生一同大いに喜びとするところであり、改築後の鴨沂高等学校の益々の発展を期待するところでもあります。

予測される巨大災害に対して、総合的な視点に立って防災対策の確立が早急の課題として提起されている今日にあって、鴨沂高等学校同窓会としましては、現校舎の耐震診断においても大地震の際には“倒壊又は崩壊する危険性が高い”ことが明らかになっていることから、地震発生時に生徒と教職員等の生命を守り、安心・安全な教育施設となることを第一と考え、現校舎は全面改築して抜本的な耐震化を図ることを前提とし、正門や鐘の保存、伝統芸能や文化活動ができる講堂の設置、茶室の遺構を残した和室の設置、校舎中央正面の雰囲気を残す設計などについてこれまで要望をお伝えしてきたところです。

しかしながら、先日来から本校の全面改築に関して、「『鴨沂高校の校舎を考える会』京都府立鴨沂高等学校 1872～2013α」及び日本建築学会近畿支部などから校舎保存の要望書が京都府知事あるいは京都府教育委員会に提出され、「全面改築の再検討が提起されている」と新聞報道が伝えております。

このような状況にあって、京都府教育委員会は「府立鴨沂高校の施設整備について」と題する広報資料（平成 25 年 7 月 10 日）で、7 月 9 日（火）に開催された教育委員会で

の議論の概要と上記要望書内容を紹介し、府立鴨沂高校校舎改築に至った経緯と校舎改築に関して「改築に当たっては、このようなことを踏まえ、建造物の部材の活用や意匠やデザインの継承も含めて、学校や同窓会、建築の専門家などに参加いただいてワークショップを開き、何をどのような形で保存することが可能か、設計の中で検討を進めていきたい。」との改築と校舎保存のバランスを考慮する意向を示されております。

こうした状況に鑑み、鴨沂高等学校同窓会は、学校建築にあっては、公教育の使命の重要性を第一義に捉えて、新しい時代に伝統文化の展開と発展に基づく国際的に活躍できる次の世代の人材を育成する教育活動の場が構築されることを重視し、老朽化が著しい施設・設備から、ICT導入などによる今日および将来に有用な教育システムに柔軟に対応可能な校舎とすべきと考えております。

今回の改築により鴨沂高等学校の在校生ならびに平成 28 年度までの入学生は仮校舎での学園生活を送ることになり多くの不都合が予測されるため、一日でも早く改築後の新校舎において教職員とともに勉学に励める安全な環境が整備されることを期待します。

鴨沂高等学校同窓会は、このような期待を支援すべく、校舎の全面改築が遅滞なく円滑に工事が進行して計画通りに落成し、平成 28 年度秋季より耐震性及び防災性能を備えた新校舎で授業を再開して、本校が所有する文化遺産を保存・継承してさらに拡充しつつ、新生鴨沂高校としての教育日標が達成できることを強く要望します。

(本会事務局：京都市上京区荒神口西入る鴨沂会館内)